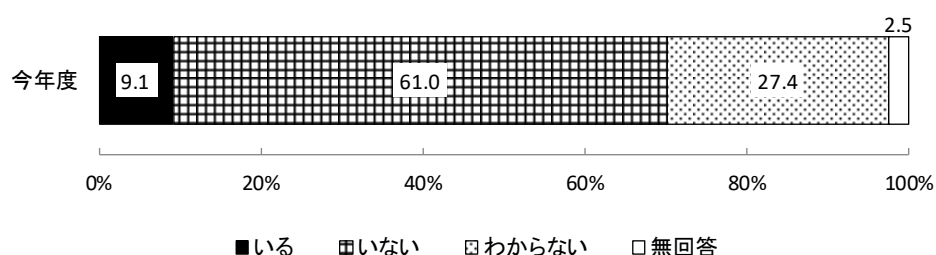


10. 性の多様性について

「LGBT」とは、レズビアン（女性の同性愛者）、ゲイ（男性の同性愛者）、バイセクシュアル（両性愛者）、トランスジェンダー（身体の性と心の性が一致しないため、身体の性に違和感を持つ人）の頭文字を組み合わせた言葉で、性的マイノリティーを表す言葉の一つとして使われることもある。

10-1. LGBTについて

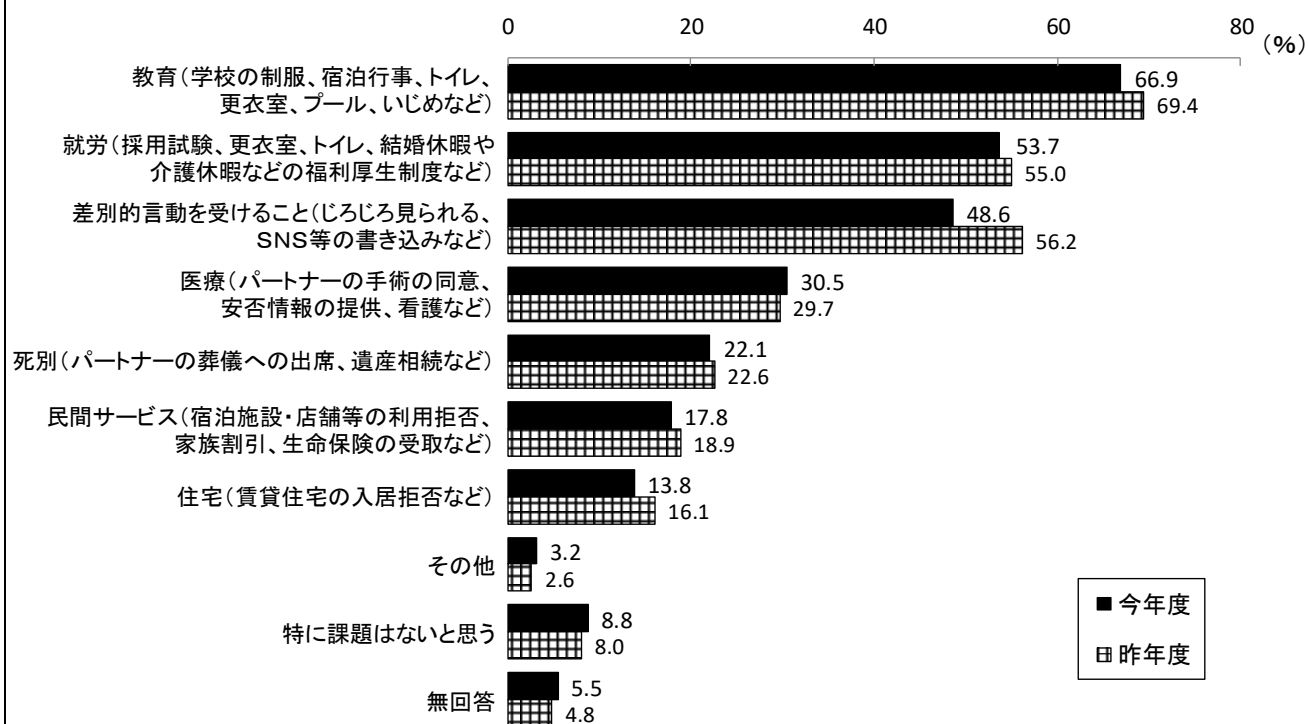
Q10-1 あなたの身の回り（家族や友人）において、LGBT等の方はいますか。
(○は1つ)



身の回りのLGBT等の存在について、「いる」が9.1%、「いない」が61.0%、「わからない」が27.4%となっている。

10-2. LGBTの方が日常生活で直面する課題・困難

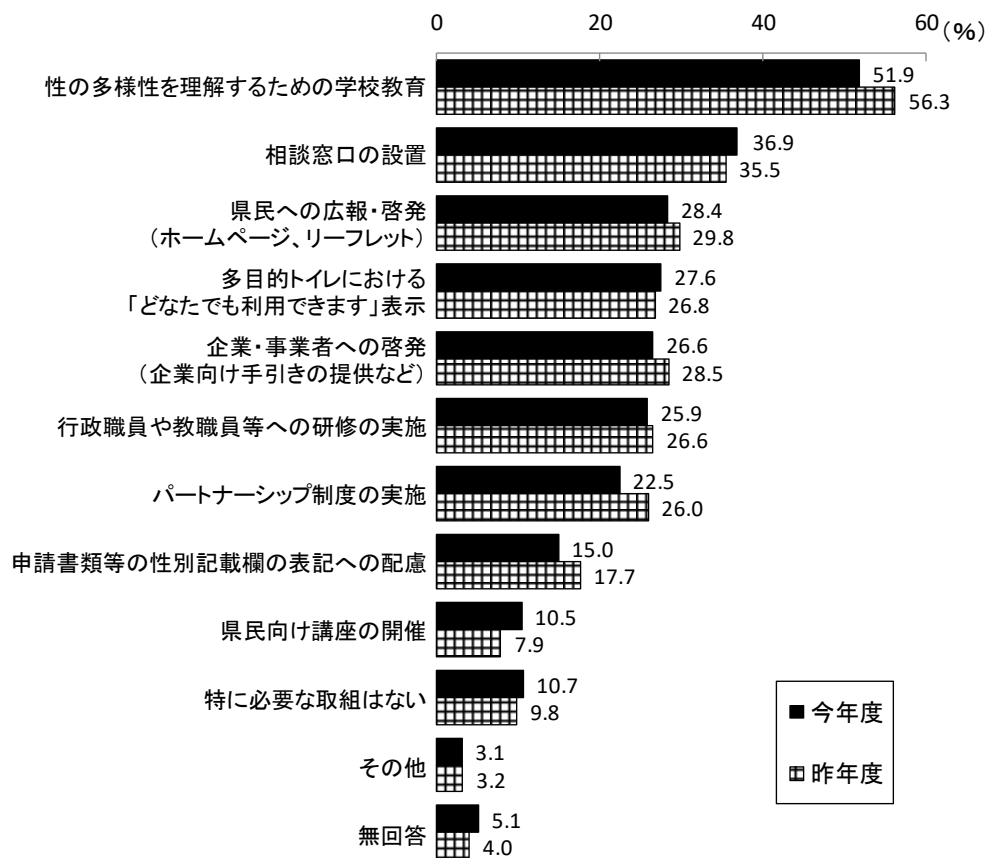
Q10-2 あなたは、LGBTの方が、日常生活を営む上で直面している課題・困難は何だと思いますか。（〇はいくつでも）



LGBTの方が日常生活で直面する課題・困難について、「教育（学校の制服、宿泊行事、トイレ、更衣室、プール、いじめなど）」が66.9%と最も高く、次いで「就労（採用試験、更衣室、トイレ、結婚休暇や介護休暇などの福利厚生制度など）」が53.7%、「差別的言動を受けること（じろじろ見られる、SNS等の書き込みなど）」が48.6%の順となっている。昨年度と比較すると、「差別的言動を受けること（じろじろ見られる、SNS等の書き込みなど）」が7.6ポイント低下している。

10-3. 性の多様性に対する理解の促進や支援のために必要な取組

Q10-3 性の多様性に対する理解の促進や支援のために必要だと思う取組を選んでください。（〇はいくつでも）



性の多様性に対する理解の促進や支援のために必要な取組について、「性の多様性を理解するための学校教育」が51.9%と最も高く、次いで「相談窓口の設置」が36.9%、「県民への広報・啓発（ホームページ、リーフレット）」が28.4%の順となっている。昨年度と比較すると、「県民向け講座の開催」は2.6ポイント、「相談窓口の設置」は1.4ポイントそれぞれ上昇し、「性の多様性を理解するための学校教育」は4.4ポイント、「パートナーシップ制度の実施」は3.5ポイントそれぞれ低下している。